

女川町 支援活動レポート

2012.8.12 ~ 2012.8.14

(宮城県牡鹿郡女川町にて)



頑張ろう日本！ 頑張ろう東北！



平成24年8月22日(水)

東北被災地応援団 白金支部

工藤 史大

女川町 支援活動レポート

このたびの東日本大震災により、亡くなられた方のご冥福を、心からお祈り申し上げますとともに、

被災された皆様に対し、心からお見舞い申し上げます。

被災地の一日も早い復興を、心からお祈り申し上げます。

1. はじめに

女川町に震災後、二度目のお盆が来るに伴い、迎え火の催しが、女川町の有志により開催されると聞きました。

我々外部の支援団体にも、お声かけを頂き、お手伝いさせて頂く運びとなりました。

現地の支援団体(REALeYEさん)からのお声かけに、参加させて頂くのは、冬の“灯”イベントに引き続き2回目です。

迎え火は、女川町や、多くの地元の方々にとって、一般的な催しで、各々の家庭の中で、行われる事と聞きました。

とても、プライベートな催しに、お声かけ頂けた事を、嬉しく思いつつ、陰ながら支えるスタンスの為、少人数で行って参りました。

また、次回の清水地区での活動に向け、現地の方々との話し合いや、摺合せを行ってきました。

他にも、今回は沢山の女川町の方々と話し合いを行い、今後の活動について考える機会を頂きました。

これまで、フェーズ、フェーズに合わせた活動をする為には、このような女川町の方々との話し合いが欠かせません。

そして、女川町の方々に多様性が出て来ている今、増々、深い話し合いが必要になっていると感じています。

女川町の今と、まだまだ寄り添いを必要としている現状をご理解頂けますと、幸いです。

2. 現在の女川町について

更地となった町の中心部には、雑草が生い茂り、囲む丘は、濃い緑色の葉に包まれています。

仮設住宅の周囲には、新たに植えられた花々が見られ、

生活に彩りを持つと努力されている様子が分かります。

希望の鐘商店街では、皆がお盆の為のお花を買い求めに訪れていました。

そして、道沿いのどこのお墓も、綺麗に掃除が行き届き、お花が手向けられていました。



更地となっている女川町中心部

3. 活動報告

今回現地入りしたのは、5名です。4名は東京から車にて北上し、1名は、帰省先より女川町にて合流しました。

訪問先は、宮城県牡鹿郡女川町の中心地である鷲神地区および、女川町地域医療センター前です。

女川町常夜灯「迎え火プロジェクト」、は、お盆の迎え火を、津波でさらわれた自宅跡地で行うお手伝いをする催しです。

主催は、女川町復興連絡協議会、共催 対話工房、協力として、京都市立芸術大学、REALeYEが関わっています。

我々は、REALeYEさんのお手伝いをさせて頂きました。

以下、活動内容について報告いたします。

(1) 準備期間

準備期間：2012/7月上旬～2012/8/11

(2) 支援活動内容

A. スーパーボールすくい 60名分

(3) 活動レポート

迎え火の催しのお話をお聞きした時、少し困った。

恥ずかしい事に、迎え火も、送り火もした事がない。

周囲ですするという話も聞いた事がない、生粋の東京人間な事が恥ずかしく感じた。

弊会の6月のイベントにご来場頂いた、現地支援団体であるREALeYEさんからの打診である。

出来る事があるならば、行かせて頂く事となった。

8月12日(日)

20時出発。

催しは13日だが、お盆の帰省ラッシュを加味し、出発は前日夕方となった。

久しぶりに、夜の東北自動車道を北上した。

雨の中の夜間走行は、背筋が冷える。

1時、大きな渋滞なく、三陸自動車道路まで到達した。

8月8日にオープンしたばかりの春日PAにて仮眠をとった。



新たに出来た春日PA

8月13日(月) 7時

出発。途中朝食を取り、女川町へ向かった。

清水地区仮設住宅、復興支援センターへのご挨拶及び、情報収集を行い、

希望の鐘商店街にて再度休憩を取った。

12時、バスにて女川入りした三上と合流し、昼食。

13時、今回の活動である迎え火の準備に合流した。

準備は数日前から始まっていた。

すでに、鷲神地区には、本部として、大きなテントが張られていた。

雑草の多くはかられていた。

本部では、迎え火受付、焼き鳥や、生ビールなど販売ブースがあった。

高台の上である女川町地域医療センター駐車場のおちゃっこクラブ前では、

たこ焼き、焼きそば、綿あめの出店が準備を進めていた。

天候は、たまに軽く雨は降るものの、想定外に良好であった。

我々は、子供達向けのスーパーボールすくいの準備をした。

子供皆が、喜んで貰える様に、考えた。

主な道具は、皆、REALeYEさんからのレンタルであった。

14時半、全体ミーティングに参加。

徐々に、ご家族が集まり始めていた。

今までお会いした沢山の女川町の方々と再会した。

そこそこに、人の輪が出来ていた。

久しぶり！や、お盆で実家に帰ってきた若い家族に目を細める姿を多く目にした。

スーパーボールすくいは、少しずつお客さんを増やしていた。

子供が駆け寄る。振り返り、親を見る。

少し困った顔で、お財布を取り出すおかあさん。

後ろからすかさず、おばあちゃんが、嬉しそうにお財布を出す。

多くの子供が、2回ずつゲームを楽しめる訳だ。

女川町に住む多くの方々に、色んな深刻な事情がある。

しかし、この一時、幸せな家族を見る事が嬉しかった。

18時半、少しずつ暮れてきた日と共に、ますます人が集まっていた。

19時、医療センターの高台から鷲神地区を眺めた。

一つ、小さな火が灯っていた。

目をこらせば、火の周囲には、一つの家族がベタリと座っていた。

津波の前に、その場所に住んでいらした家族だ。

薄暗がりの中に、一つ、また一つ、火が灯っていった。

あまりにも厳かな催しであった。

言葉なく、眺めていると、これまでに知り合った女川の方々が話しかけて下さる。

この地区では、避難場所はそこにあった。ずっとそこを越えて津波が来た事。

ほとんどの家は2階建て以上であった事。

沢山のご老人が在宅であった事。

沢山の家族が、2階に居るご老人を大丈夫と思い、避難した事。

他の沢山の家族は、逃げなかった事。



全体ミーティングには沢山のボランティアさん達が



桶に落ちそうになる子供達。どうしてもそれが欲しいの？



小さな明かりがポツリポツリとつきました

そして、全て流された事。
明るく話される言葉の一つ一つに、後悔や、苦しみがベッタリとある。
あそこに、パン屋って名前の駄菓子屋があった。
その角に友達が住んでた。
あそこの家の父ちゃんは、戻って流されたんだっけ？
和やかに話される内容は、泣きたくなる程の現実だ。
がらんとした更地に、沢山灯る火を眺めながら、打ちのめされて行く。
この場所に居させて頂けて、本当に良かった。
花火が大きく上がっていた。

20時撤収開始。
スーパーボールすくい、のべ38人の子供に楽しんで貰えた。
全体撤収手早い。
21時、高政、高橋さんを介し、女川水産加工研究会の方々とお会いした。
女川町の水産加工業の現状についてのお話を伺った。
今回も華夕美さんに宿泊。
前日からお手伝いをされている70名程のスタッフが宿泊していた。

8月14日(火)

午前から清水地区へ訪問。
9月の活動に向け、情報収集。
新たな繋がりをいくつか作る事が出来た。
9月の活動が待ちどろしい。

12時、石巻に新たに出来た牡蠣小屋に寄らせて頂いた。
このお店は、もともと支援活動に訪れていた店主が、
石巻で大量に採っては廃棄している牡蠣を見た事がきっかけとなり、
牡蠣を、購入、販売する事で、地域の経済効果をあげられると考え開設した店だ。
形は違えど、志は同じく、東北に向いている。
美味しい牡蠣を頬張りつつ、我々の今後の方針について、考えさせられた。

以上、簡単ではありますが、活動レポートとさせていただきます。
この様な、草の根的な活動を、東北地方が復興出来るよう、
微力ながら続けていこうと考えております。
今回の活動に、物資ご提供いただいた皆様、支援金を寄付いただいた皆様、
ご協力いただいた皆様に、感謝いたします。
また、引き続きご支援、ご協力の程、宜しく願い申し上げます。



清水地区にて情報収集。フムフム。そうか。



いろいろな支援の形を教えてくれた牡蠣小屋

4. 活動成果

(1) 経験、実績を残したこと

- ・女川で初めての迎え火のイベントに参加させて頂けた。
- ・これまで知り合わせて頂いた多くの女川の方々と再会する事が出来た。
- ・他の支援団体の方々と交流を持つ事が出来た。

(2) 現地の状況を知れたこと

- ・少しずつ、家族が居なくなった事を受け入れてきている方々がいらっしゃる。
- ・沢山、お話をされたい方々が出てきている。
- ・お盆に、実家に帰る若い世代が多かった。
- ・女川町を支援する団体が限られてきている。

(3) ネットワークが持てたこと

- ・女川町復興支援センターを始め、各仮設住宅の地区長さんなど、多くのキーマンとネットワークを持てた点

- ・今までお会いした多くの女川の方々と再会できた。
- ・普段話す事のなかった、水産加工研究会の方々とお話しする事が出来た。

5. 今後の予定

(1) 女川町9月支援活動の予定

9月22日(土)～23日(日)、清水地区仮設住宅(清水地区仮設住宅 114世帯 364人)に伺います。
女川町のお母さん達から教わる、本場すり身汁講座、すり身汁お食事会、三味線コンサート等を予定しております。
何か、心沸き立つ、楽しい事が出来ないか、少しでも、皆様に出て来て頂ける事を目指し、頭を捻っております。

(2) 10月みなと区民まつりに出店

10月6日(土)、7日(日)にみなと区民まつりに出店いたします。2日間で、20万人の人出があるという大きなお祭りです。
場所は、港区芝公園一帯(芝公園、増上寺、東京プリンスホテル、港区役所) 東京都港区芝公園、と広いです。
我々は、港区役所エリアのふるさと物産展の中に出店いたします。
東京におけるイベントへの出店は、2回目となります。女川の美味しい物産を、東京で周知する事により、
少しでも女川町の経済効果を上げる事が出来ればと考えております。
美味しい焼き秋刀魚、秋刀魚のすり身汁、生ビールも販売いたします。
女川町の秋の味覚を味わいに、是非足を運んで下さい。

6. 補足事項

(1) 参加者(敬称略/順不同)

三上 加寿子 近藤 尚之 小澤 徹 仙頭 淳子
工藤 史大

(2) 後方支援者(敬称略/順不同)

尚礼会町会 橋本 翔二 小澤 雅志 小澤 静子
川端 陽子

(3) 支援金寄付(敬称略/順不同)

宮川内科小児科医院有志一同

(4) 現地協力団体

REALeYE (高橋 圭介 様、高橋 一枝 様)

皆様からの、あたたかいご支援・ご協力のうで、成り立っております。
本当にありがとうございました。
私達は、被災地への支援活動を、継続していきます。今後とも、どうぞ宜しくお願いいたします。



平成24年8月22日
東北被災地応援団 白金支部
工藤 史大

★東北被災地応援団 白金支部 WEBサイト★

<http://www.onagawa.e-ouen.jp>

※このレポート内にあります画像の流用及び転用は、一切禁止します。

Copyright (C) 2011 Tohokuhsaichi-Ouendan All Rights Reserved.